



2017年の市場を展望する

2016年の海外旅行者数は1700万人台を回復、前年比は速報値で5・6%増と徐々に好調な数値となりました。この流れは2017年も継続するのでしょうか。旅行商品の取扱人数の推移を含め2017年を展望します。

好調だった2016年とは様変わりする2017年

昨年末にJTBが発表した2017年の海外旅行者数の予想は前年並みの1700万人という内容でした。伸び率の見直しは±0%となっています。直近の2016年11月の旅行者数が10・5%増、12月が8・0%増と好調でしたので、2017年の旅行者数が前年並みになるということは、市場の様変わりを意味しています。

そもそも2016年の好調さはどこから来ていたのでしょうか。2016年の海外旅行者数は円レートが若干上昇したことに加え、韓国、台湾を含むアジア方面への国際線航空座席数の急増が追い風となつてプラスとなりました。(図表1) LCC比率も総座席数の20%前

後まで急上昇したと考えられ、近場を中心に20代などの若年層の需要拡大に貢献したと推測されます。また2016年の旅行者数増加にはエボラや相次ぐテロに悩まされた2015年からのリバウンド要素も貢献したと考えられます。

2017年に関しては先ずこうしたリバウンドによる需要の押し上げが弱まってくると考えられます。訪日旅行者数の伸び率も下がってきており、近場を中心に一部の方面では座席数減少の可能性が現実のものとなっています。為替レートは前年に比べると円安で推移すると想定され、春以降は燃油サーチャージの復活も想定されています。このように2017年はプラスの材料が減り、マイナスの要素が次第に強まってくるために年の後半では旅行者数がマイナスの月が出てくる可能性がある。これが冒頭の旅行者数予測の背景にある考え方です。

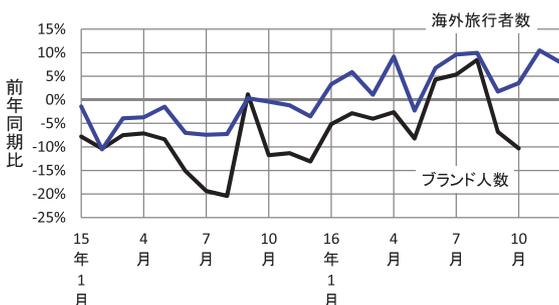
旅行会社の取扱は団塊世代のりカバリーがカギ握る

2016年は20代や40代などの旅行者層が好調であった一方、60代後

半以上のシニア層は動きが鈍かったようです。観光庁の統計によれば旅行商品ブランド(募集型企画旅行)の取扱人数は年の6月〜8月はプラスに戻したものの、その後は再びマイナスとなっており、最後まで旅行需要のリバウンドに乗り切れなかったという印象です(図表2)。

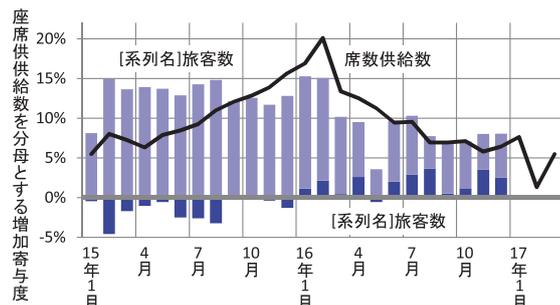
2017年は旅行者数自体が前年並みと予想されるため市場環境は前年ほど良くありません。その一方で停滞が続くシニアの需要が回復すれば、旅行者総数が伸びない中で、募集型企画旅行の取扱人数がプラスに戻すという局面もありうるでしょう。60代後半以上の層とは「団塊世代」とほぼ同義です。この世代の旅行意欲自体が弱体化したわけではなく、海外が選択されにくくなっている、というのが現状であろうと思います。団塊世代をもう一度海外旅行に引き戻すための働きかけが期待されるどころであり、そのためには業界の連帯した取り組みが必要ではないかと思えます。

海外旅行者数、及び旅行商品ブランド取扱人数の伸び率



データ: 観光庁、法務省

国際線座席供給数とアウトバウンド、インバウンドの推移



データ: 法務省、OAG

黒須宏志
旅行市場動向のリサーチャーとして講演・寄稿などで活躍中。(株)JTB総研 執行役員・主席研究員。1964年生まれ。